

前期終業式

聖書 マタイによる福音書 7章 7節 (新約聖書 11 頁)

求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。叩きなさい。そうすれば、開かれる。

開かれている

イエスが弟子たちに語った教えです。原文は進行形です。「求め続け、探し続け、叩き続けなさい」という意味です。シンプルに「継続は力なり」でしょうか。そうであれば努力すれば与えられ、見つかり、開かれるという意味になります。しかしそれでは主客転倒ではないでしょうか。私たちの努力で実現できるなら、誰に、何を求め、探し、叩くのでしょうか。

そもそも最後の「叩きなさい」とは何を叩くのでしょうか。宿題ができていないので、眠気を醒ますために自分の足を叩くのでしょうか。実は原文では何を叩くのかは書いてありません。ただ他の訳では「門を叩く」とあります。実はこのすぐ後「狭い門から入りなさい」(13 節) という教えが続いていますので、確かに「門」のことでしょう。

すると「狭い門」ですから、やはり努力や、競い合うことを勧めているのでしょうか。ヒントは「狭い」には「うめく」という意味があることです。人間関係で不安や不満を抱え、ひとりで耐えているような感じです。それは相手のことよりも、思うようにならないもどかしさです。自己中心的な世界から抜け出せない辛さです。

だから狭い門を通るというのは自分自身と向き合うことからです。ただイエスは「わたしは羊の門である」(ヨハネによる福音書 10 章 7 節)、また「わたしは門である。わたしを通して入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つける」(同 9 節)と言っています。だから門は狭いけれども、叩く前からすでに開かれ、その向こうには牧草が用意されているのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、前期終業の時を迎え、あなたの計り知れない御恵みに心より感謝します。すべてをあなたに委ねなさいとのみ言葉から始まった本年度でしたが、改めて日々の祈りの時を恵みとして与えられたにもかかわらず、淡い期待やあこがれに流され、日々の感謝と祈りの時をおろそかにし、無為に過ごしたことも少なくなかったことを悔やみます。しかしあなたと共に歩む道は狭くても、すでに豊かないのちの恵みが用意されています。来週にはすぐ後期始業の時を迎えます。どうか寒暖の差も厳しくインフルエンザも流行しています。静かに心身共にいたわる時としてください。そしていまだ世界各地の災害、激しい争いにある人々を覚えて祈ります。どうかわたしたちを平和の器として用いてください。また心身に苦しみを覚える家族、友人を覚えて祈ります。どうかその艱難を耐え、御心ならばひと時でも早く回復の時を与え、共に喜びと感謝を献げることができますように導いてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン